



私の好きなタンゴ曲集 3

1	ラ・クンパルシータ	ネストル・マルコーニ・オクテート・ブエノスアイレス	5:20
2	碧空	フロリンド・サッソーネとグランオルケスタ・ティピカ	2:39
3	さらば草原よ	前田美智子(声) 坂本政一・ティピカ・ポルテナ	3:43
4	オレ・グアッパ	マランド楽団	3:22
5	真珠探り	リカルド・サントス楽団	3:12
6	モンテカルロの一夜	アルフレッド・ハウゼ・タンゴ楽団	2:40
7	ジプシーの涙	アルフレッド・ハウゼ・タンゴ楽団	3:16
8	ホテル・ビクトリア	カルロス・ガルシア & タンゴオールスターズ	2:53
9	インスピレーション	ホセ・パッソ楽団	5:03
10	ラ・クンパルシータ	マリアノ・モーレス(Mariano Mores) 楽団	3:19
11	リベルタンゴ	ファビオ・ハーゲル & タンゴ・デル・スール	2:49
12	天使のミロンガ	三浦一馬 & Five Musician	6:34
13	ブエノスアイレスの秋	Astor Piazzolla & Su Quinteto	5:46
14	ラ・クンパルシータ	ファビオ・ハーゲル & タンゴ・デル・スール	6:08

- 1 **ラ・クンパルシータ** **ネストル・マルコーニ・オクテート・デ・ブエノスアイレス** **5:20**
「クンパルサ」＝「カーニバルの小さな行列」(キューバ語)。ウルグアイの学生マツ・ロドリゲスが作曲(1810)しました。
シンプルな構成の曲ながら、永遠不滅の魅力を放ち世界 NO.1の人気を誇っています。この盤では同じこの曲を3つの楽団による名演奏(1番・11番 14番)で聴いて頂きまして、聴き比べを楽しんで頂ければと思います。
第一番目は、マルコーニの楽団によるものです。彼はきちっとした楽理をベースに、限定の枠に捉われない新鮮なアレンジで、洗練された現代アルゼンチンタンゴを牽引するバンドネオン奏者・編曲者です。
3度にわたる来日記念演奏の一つであるこの演奏の後半では、マルコーニのソロと、バリエーション(変奏)が堪能できます。
- 2 **碧空** **フロリンド・サッソーネとグランオルケスタ・ティピカアルゼンチン** **2:39**
1980年に日本に紹介されたコンチネンタルタンゴのスタンダード名曲で、ヨゼフ・リクスナーの作(1936)です。
切れ味鋭く、いかにもドイツらしい歯切れのよいリズムと、流麗な編曲のバランスで50年間大人気を博してきました。
- 3 **さらば草原よ** **前田美智子 坂本政一・ティピカ・ポルテニア** **3:43**
マリイアノ・モーレス と フランシスコ・カナロの共作(1945)で、空前の大ヒットとなりました。
「さらば我が草原よ 私は見知らぬ土地へと去っていく さらば私が歩んだ道よ 川よ 山よ 溪谷よ 私が生まれたあばら家よ 愛しい故郷よ もう一度お前と会うことがあれば 私はお前に知ってほしい 去る時私が命を置いて行ったことを、、、さらば…我が草原よ お前を残して行く 私の瞳と心には 牧草の緑と 星たちの瞬きが満ちている 時には私を喜ばせ時には泣かせてくれた風と歌と ギターのすすり泣きと共に…」
- 4 **オレ・グアッパ** **マランド楽団** **3:22**
オレ＝闘牛等で、相手を鼓舞する掛け声、グアッパ＝美女 美女への称賛。オランダ出身のマランドが同名のオランダ映画の主題歌として作曲(1937)して大ヒットし、作曲家としても高い評価を得た彼は、その2年後に世界屈指のムードオーケストラ、マランド楽団を結成。来日公演も重ねましたが、1980年に没して楽団は息子に、そして今は孫に継承されています。
- 5 **真珠採り** **リカルド・サントス楽団** **3:12**
フランスの作曲家、ジョルジュ・ビゼーが作曲{1863}したオペラ「真珠採り」のアリア “耳に残るは君が歌声” を、タンゴ化したものを、ドイツのガーツェが見事な編曲をして1950年代中頃から盛んに演奏される様になり、戦後のコンチネンタル・タンゴの人気 NO.1の曲になりました。
- 6 **モンテカルロの一夜** **アルフレッド・ハウゼ・タンゴ楽団** **2:40**
1931年のドイツミュージカル映画「狂乱のモンテカルロ」の主題曲として、リヒャルト・ハイマンが作曲して人気を博し、今ではコンチネンタルタンゴの代表曲の一つとなっています。が、ハイマンはユダヤ人であった為、その後国外に追放されました。
- 7 **ジプシーの涙** **アルフレッド・ハウゼ・タンゴ・オーケストラ** **3:16**
- 8 **ホテル・ビクトリア** **カルロス・ガルシアとタンゴ・オール・スターズ** **2:53**
フランシスコ・コカナロが、ゴールドバ市の同名ホテルのオープン式典の為に作曲し、初演した曲なので、現在聴けるタンゴとしてはかなり古い方ですが、ピアノの名手ガルシアによる編曲は、新しいセンスに満ちていて、本当に素晴らしい！
タンゴ・オールスターズ とは、投票によって決められた各楽器の名手達を、ガルシアが率いる特別編成グループで、オールスターの名に恥じない素晴らしいメンバーが揃っています(タンゴ史上最高のヴァイオリン・ソロ奏者・ブランチャー二等)

9 インスピラシオン ホセ・バツソ楽団 5:00

ペレグリーノ・パウロス 2 世の代表作で、アメリカでも広く知られ、古のタンゴらしい気骨と優雅さを兼ね備える古典の名旋律。これは 1985 年来日記念演奏で、豪快なバツソのピアノと、踊りやすいリズム、新しいハーモニーでファンを魅了。ヴァイオリン、バンドネオン、ベース、個々の楽器を生かした編曲ですが、全編にちりばめられたバツソのピアノが光ります。

10 ラ・クンパルシータ マリアノ・モーレス(Mariano Mores)楽団 3:19

リーダーのマリアノ・モーレスは、ピアニスト、タンゴ界が誇るメロディーメーカーで、アルゼンチンの古賀政男といわれ、50 年代から独自の大編成楽団を結成して世界に受け入れられるタンゴの演奏表現を創造しました。このラ・クンパルシータの演奏も、打楽器・キーボードを活用して新しいタンゴの世界を生き生きと繰り広げ、完成度の高さは抜群です。

11 リベルタンゴ ファビオ・ハーゲル & タンゴ・デル・スール 2:49

数あるピアソラ作品の中でも、あまりにも有名な曲で、ヴァイオリニストのギドンクレーメルや、チェリストのヨーヨーマにより世界中に広められました。題名は、リベルター(自由)にタンゴを合体させたもので、スランプを脱してヨーロッパでの再出を目指すピアソラの意欲が表れています。

12 天使のミロンガ (Milonga Del Angel) 三浦一馬 & five musician 6:34

アルゼンチンの舞台劇「天使のタンゴ」の為にピアソラが作曲。

「ミロンガ」とは、ハバネラとも似たタンゴ前身のリズム。「ゆっくりとしたテンポの中で、気高く、ストーリー性に富んだ旋律が、抒情的に、そしてこの上もなく官能的に歌い上げられる」 三浦一馬評

13 ブエノスアイレスの秋(Otono Porteno) Astor Piazzolla & Su Quinteto 5:46

有名なピアソラの作品、ブエノスアイレスの「四季」シリーズの一つで、「夏」が書かれた 4 年後 1969 年に書かれました。「バンドネオンとバイオリンの 2 つのカデンツァを挟みながら、緩急それぞれが交互に対比されていく。「緩」の部分で展開されるモノクロ的な、しかし鋭く光る雰囲気は、木枯らしの舞うブエノスアイレスそのものである」 三浦一馬評

14 ラ・クンパルシータ ファビオ・ハーゲル & タンゴ・デル・スール 6:08

ファビオ・ハーゲルは、今一番活躍しているバンドネオン奏者の一人で、編曲指揮者でもあります。

タンゴ業界で一番有名かつ権威があるバンドネオン教授(ドミンゴ・マティーオ)と、音楽理論でタンゴ音楽発展史を陰で支えてきた大物(ペドロ・アギナール)からしっかりした昔のタンゴ教育を受け継ぎ、1989 年に楽団を結成し、タンゴ演奏の基本である 6 重奏(バンドネオン・ヴァイオリン 2 名・ピアノ・コントラバス)で様々な時代のタンゴを若々しく表現して人気を得ていましたが、その後に結成したこのグループでは、第 2 バンドネオンをチェロに変え、昔ながらのタンゴ表現を今の世代の感性で生かす、より大人のムードで、肩の力を抜いたベテランの境地からの演奏は、様々な好み、様々な世代のファンから大人気を博しています。

この演奏は、ピアノを除くメンバーが一人ずつ、第 1 テーマによるソロをたっぷり展開するサービス・バージョンです。